

平成 29 年度

事業所名 : グループホーム ゆい

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0392100012		
法人名	医療法人 徳政堂		
事業所名	グループホーム ゆい		
所在地	岩手県岩手郡岩手町大字江刈内6-8-9		
自己評価作成日	平成 29年 8月 23日	評価結果市町村受理日	平成30年3月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/03/i.ndex.php?act=i.on.kouhyou_detai.1.2017.022.kani=true&Ji.gvosvoCd=0392100012-00&Pr.efCd=03&Ver.si.onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成 29年 9月 12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆいは町内の中心部に位置しており、沼宮内駅から徒歩5分バス停も近く交通の便が良い。母体は医療法人であり、診療所、介護施設、居宅支援事業所などの事業所を運営しており、医療面での支援が充実している。地区子供会を招いての交流。愛宕山に隣接しており7月の例祭、10月秋祭り等季節ごとの地区行事も参加し馴染みのつながりを持てるように支援している。町内にもう一つ法人が運営しているグループホームがあり定期的な交流を行い連携を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、沼宮内駅から近く、町内の中心部にある。母体が医療法人のため、健康への安心が確保されており、系列のもう一つのグループホームとは、定期的な交流がある。職員は、利用者の「自立支援」に重点を置き、「寝たきりにさせないケア」に取り組んでいる。歩行訓練や大きめの貼り絵作業、口腔体操等全身の機能訓練が日常的に行われ、結果全員の姿勢はしっかりしており、排泄や入浴、食事等、日常生活の自立として現れている。また、職員は利用者の何気ない会話や行動を細かく把握し、利用者が自分らしい生活が送れるよう支援に努めている。利用者は、日頃はベンチで地域の人と会話を楽しみ、また馴染みの商店や町内会の祭りなどで交流があるほか、敷地内の菜園の手入れやリンゴの収穫等、恵まれた社会環境の下で、地域との関わりを身近に感じながら生活を送っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

平成 29 年度

事業所名 : グループホーム ゆい

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に掲示し意識付けを行っている。また年1回の勉強会により確認を行い共有しケアにつなげている。	理念をホールと玄関に掲げ、勉強会では理念を掘り下げた話し合いをしている。「自立支援」を職員のコンセプトとしながら、理念に具体的に掲げる4項目について日々実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的なボランティアとの交流、季節行事に合わせた交流会を継続的に行い地域の一員としての意識を持てるように支援している。	町内会に加入しており、職員は草取りなどに参加している。隣接の空き地では、どんと祭りや神社の秋祭りなどが催され、地域の人と楽しいひと時を過ごしているほか、ボランティアとしての訪問があるなど、地域の人と触れ合う機会は多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の介護事業所などを通じ、家族の相談を随時受け付けている。また運営推進会議内でも認知症の支援方法等助言している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価での目標について取り組み状況を報告し、アドバイスや意見、情報をいただき活かすようにしている。	会議は利用者が居室で過ごす午後、ホールで開催している。利用者の状況や事業報告の他活発な情報交換がある。今回警察や消防署の参加を得て防犯や災害に関する情報があり、旧国道の側溝の改修検討願いに、又新規防災頭巾の購入に繋がっている。	職員はお茶出しなどで会議に間接的に参加している。できればメンバーとして会議に参加し、地域の理解と支援をさらに得るきっかけづくりに、利用者の日頃の生活やケアについて話すことを一考されたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターとは、普段から入所状況等情報のやり取りを行い、予防接種券なども直接ホームに配布してもらうなど協力いただいている。気象の注意報など発令されると翌日確認の連絡が入る。	町の健康福祉課の担当は、運営推進会議のメンバーであり、町内の一人暮らしの高齢者の情報や入居の状況の確認など協力関係が築かれている。町の職員の来訪もあり、こちらから申請代行や相談で訪問する機会も多い。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を行うことで、具体的内容の確認を行い日常生活に活かしケアを行っている。玄関も夜間施錠が基本。	日中玄関は施錠していない。「家に帰りたい」という利用者もいるが、ベンチで過ごすだけで落ち着くようになってきている。「理由をつけお願い調で話す」ことや「利用者が選択できるように話す」など、新人職員も含め抑圧感のない声掛けをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行うことで、虐待について正しく理解できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業等制度について勉強会を行っている。家族支援が困難な入所者が居り状態を把握し継続して支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や制度改正、料金改定時においても手紙でお知らせし、重要事項により再度説明し納得を頂き取り直しを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の様子を定期的に家族に伝えており、来所時には家族からの希望や意見を伺うようにしている。年1回のアンケート調査を実施し会議で結果を報告している。	毎月の利用料の「お知らせ」と併せ、利用者の生活の様子を伝えている。利用料は出来るだけ持参いただき、直接会える機会の一つとしている。敬老会に参加の折にも意見を聞くようにしている。アンケート調査では本を読ませて欲しいという要望があった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部署ミーティングにより話し合い自分たちで解決できることは部署内で行い、決済が必要なものは法人の運営会議で改善できるようにしている。	管理者は職員が相談しやすいよう日頃から環境づくりに配慮しており、公平な勤務時間帯の調整等にも努めている。長期休暇や決裁が必要なものは法人の了解が必要であるが、基本的には管理者の判断が尊重され、車椅子や床頭台等の備品の購入等も時間を掛けずに実現されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいを持って働けるように、それぞれのキャリアに合わせ研修を行ったり、他職員が研修への協力をを行うことで、全体的なレベルの向上を図れるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な勉強会を行うことと、外部の研修案内からも機会の確保を行っている。資格の取得に関しても実現できるよう調整している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加盟し必要な情報を得ている。研修に関してもその都度調整を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人が施設を見学できるように配慮し不安が解消できるよう面談も行い聞き取りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込み時に状態の聞き取りを行い、サービス導入時も経過や状況を把握するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申し込みの時点で状態を把握することで、他のサービスを含めた情報提供も行うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のしている部分出来ない部分の見極めを普段の生活の中で確認し、本人の持つ力を伸ばせるような関わりを行うようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の言動などから思いを察し、家族と共有することで、共同で支えることが出来るように関係を構築している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	買い物や散歩、地域行事への参加。面会者を介しての交流など情報を得ることで交流の支援に努めている。	入居前に利用していた近くの食糧品・日用雑貨店に時々出かけ、そこで知人等との出会いがあり、それを機にホームを訪れる人もある。また馴染みの場所へのドライブや、他のグループホームとの交流、家族との墓参りや美容院へ行く利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者個々の性格や個性に配慮しつつ、お互いに負担のないなじみの環境が構築できるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も情報交換をしながら相談や支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向が把握できるように職員間で小さな情報でも共有できるようにしている。それをもとにケアに活かすように努めている。	利用者の何気ない言葉や行動を、ありのままに記録にとどめ、家族からの情報も得ながら、利用者の意向の把握に努めている。表出される言葉や行動は、把握に時間がかかることもあるが、本人の視点に立った話し合いをしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に状況確認を行うが、本人からも会話の中でまた面会に訪れる家族に確認するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の行動や言動から、精神面や身体面を汲み取り対応している。またレクや作業などから有する能力を把握し共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員を中心評価を行い計画に反映している。現状や評価は家族に説明し理解を得ている。	個人記録を基に担当者を中心に、毎月会議を行い、本人の意向や家族の希望を入れた介護計画を作成している。寝たきりにさせないケアに重きを置きながら、利用者本人の日々の暮らしを反映した具体的な介護計画にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	心身の状態は申し送りで把握し、日誌や個別記録に記載している。状態に合わせ日課の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況を踏まえお互いが安心できるような対応をとるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	身近なボランティア団体による慰問、子ども会との交流や地域行事へ個別参加も行っている。近隣の美容室の来所も依頼している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	設置主体は医療法人であり態勢は整え主治医との連携を図っている。家族希望により他院への紹介、定期受診も行っている。	入居時に本人、家族の了解を得て、かかりつけ医は法人の医師に変更している。週3回の訪問診療があり、看護師も毎週来訪している。歯科は往診か受診、他科の受診は職員が同行している。検査の際は、家族が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回程度の来所により状態の把握を行っており、適切に対応できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医や病院との連携によりの確な情報を家族に伝達することで入退院に関する不安の解消に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	健康状態・家族の意向を含め柔軟な対応が可能となるよう協議できる態勢にある。現状から予測される状況を伝え方向性を共有している。	入居時に「看取り指針」や「医療連携指針」について説明しているが、現在、重度化に対応できる浴室の整備が不十分のため、特別養護老人ホームへの入所や併設医療機関への入院としている。今後看取りへの対応は必要と考えている。	利用者の高齢化に伴い、介護度も高くなると予想される。浴室が未整備なもの、医療体制は看取り可能な状態である。今後、職員と話し合いを重ねながら、看取りの研修や体験学習に向けた取り組みを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当、初期対応に関して、緊急対応マニュアルに沿った対応が出来る。急変に関しては主治医に的確に状況を報告し指示により対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各災害を想定した避難訓練を行っている。昨年、土砂・水害対策のマニュアルを作成し、備品や非常食のチェックも行っている。	火災、地震、水害、土砂災害を想定した避難訓練を毎月実施している。夜間想定訓練では、避難経路、所要時間、問題点の抽出に重点を置いて、取り組んでいる。発災時に備えて利用可能な洋式トイレ設置避難所を特定し、法人の防災委員や町内会の防犯交通部の支援が確約されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会を行い確認を行い、それを踏まえ日々のケアに活かすようにしている。	高齢化に伴い、聴力が弱まっている利用者の対応や入浴、排泄時のプライバシーの配慮等、人生の先輩であることを心に留め、声掛けには特に配慮している。居室もプライバシー空間と位置付け日中も出来るだけ入室を控えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や思いが自然に話せ自分で選べるように思いを引き出せる言葉かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の様子や変化を観察し体調や本人の精神負担を考慮したり、希望も聞きながら一人ひとりのペースに添えるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のこだわりやお気に入り等把握し気分を害さないように支援している。美容院も本人希望を伺い対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれ得意分野があり負担にならないよう配慮しながら声かけを行っている。季節感を感じることができるようメニューや誕生日には希望食を取り入れている。	100歳を超えた利用者を含め、全員が食材の買い物から食事の準備、調理、後片付けまで、できる範囲で参加している。家族やご近所から差し入れされた果物の皮むきや干し柿づくりをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期検査や栄養管理によりアドバイスを頂いている。一人ひとりの嗜好や摂取能力に応じた食事を提供し、また状態の変化に対応できるように情報を共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、週1回の除菌を行っている。ケア用品は各自のものを準備し出来ない部分を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本とし、定期的な声かけや動作の観察などによりパターンを把握し自立への支援を行っている。	ほとんどが自立しており、2人のリハビリパンツ使用者も声掛けでトイレに行き、夜間のオムツ使用者はいない。1人の尿カテーテルを利用している方は自分で処置ができ、介助はほとんど不要である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄パターンを把握し食事や水分、運動の促進と下剤管理でコントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は本人の身体状況や、他入所者との相互関係を配慮しながら声かけを行っている。シャワー浴、清拭や足浴などの対応も行っている。	入浴は水曜と土曜日の午前中とし、希望により入浴の順番を変えている。声を掛けられるのを今か今かと待っており、入浴を拒む人はいない。部分介助がほとんどで、体調によりシャワーや清拭、足浴にしている。季節の菖蒲湯も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調不良や寝不足など、その日の状態に応じ休息を取り入れ対応している。各自の就寝時間もまちまちである。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容が確認できるファイルをもとに、個別の管理を行っている。職員間で状態の変化の情報を共有し体調により上申を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人が得意な作業や、教えることで出来る作業を引き出し、やる気や張り合い気分転換になるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	普段日光浴や外気浴、散歩を行っている月1回は外出できるように計画している。盆・正月はもちろん、敬老会、外泊など家族が対応してくれる。	普段はベンチで過ごしたり、散歩をしている。利用者の希望を入れた月例のドライブや、近所の商店での食材買いなど戸外へ出る機会も多く、家族と外食や旅行する人も多い。最高齢の利用者と葛巻境の実家へ花見に出かけ、居合わせた縁者や知人に歓迎され、思い出のドライブとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には施設で管理しているが、買い物行事には本人が選んで支払いまで職員共同で行っている。能力に応じ個人で管理している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	不安や相談事がある時は時間を隔てずすぐに対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは、季節や行事に合わせて装飾を替えている。トイレや居室は、分かりやすいように表示し安心して過ごせるようにしている。	高い天井とホールの奥まで差し込む日差しは、木造のぬくもりと併せ温かさを感じる。事務室、ホール、台所を挟み、周りを廻る廊下は歩行訓練の場として活用しており、程よい間隔でソファとテレビが配置されている。浴室と隣り合わせの独立した物干し場は、共用空間を快適にする裏方の役を果たしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのほかに小スペースや畳の間もあり気分に応じ過ごせる空間がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人の作成したものや、記念品を置くことでその人らしい空間を作っている。	八畳の居室は、ベッド、チェスト、クローゼットが用意されている。利用者はテレビやラジオ、位牌、写真等を持ち込み、壁には自作の貼り絵カレンダーを飾る等、自分らしく暮らせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体能力に応じた居室位置家具など整備を行っている。歩行補助具もその都度状態を検討しながら導入し自立した動作が出来るようにしている。		